

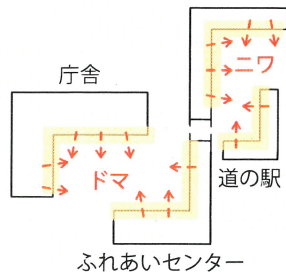
まちの賑わいが溢れる魅力ある庁舎

テーマ②井手町らしい賑わいあふれる庁舎の提案

〈ドマ〉と〈ニワ〉という外部空間を核として展開する庁舎は、周囲に広がる豊かな田園風景とも親和性のある佇まいです。同時に街のような賑わいにあふれ、内外を様々な活動が横断する、常に新鮮な出会いや発見に満ちた場所になります。このように自然と人々の営みが一体となった空間こそ、井手町にふさわしい庁舎のあり方だと私たちは考えます。

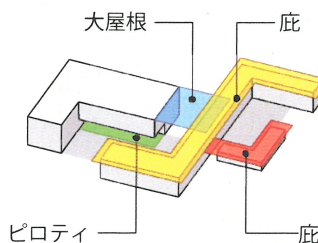
■賑わいがあふれ出すまちの縁側

〈ドマ〉と〈ニワ〉の間を縫うように細長く伸びるふれあいセンターは、建物のどこにいても外部の活動や豊かな自然が感じられる、大きな縁側のような空間です。〈ドマ〉を介して庁舎と、〈ニワ〉を介して道の駅と連携し、様々な活動が外部空間にあふれ出す、賑わいにあふれた場になります。



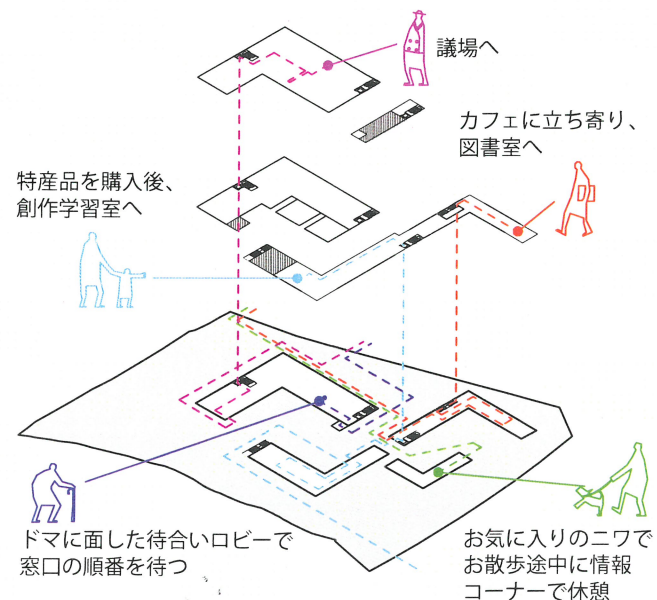
■活動が連なる軒下

ふれあいセンターや道の駅に沿って伸びる庇、庁舎との間にはかけられた大屋根、庁舎1階の待合から連続するピロティなど、様々な高さで立体的に屋根が連なり、大きな軒下空間をつくります。このような半屋外空間は、単に建物間を雨に濡れずに行き来できるようにするだけでなく、内部と外部の活動をより緊密なものにし、町民活動の幅を飛躍的に増大させます。



■まちの回遊性を高める

新国道バイパスの開通をはじめ、新たな人の流れが生まれようとしている井手町において、庁舎もまた街と連続し、回遊性に寄与するような存在であるべきだと私たちは考えます。庁舎に寄った帰りにカフェで休憩したり、学校帰りに図書館で勉強したり、観光で訪れた人がお店で買物をしたり、様々な人の往来が豊かな外部空間を介して展開する、さながら小さな街のような庁舎です。

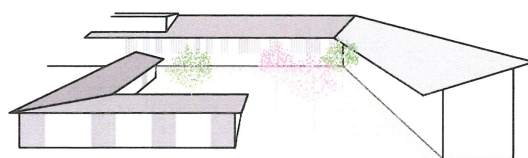


まちを巻き込んだみんなの庁舎

テーマ③その他独自の提案

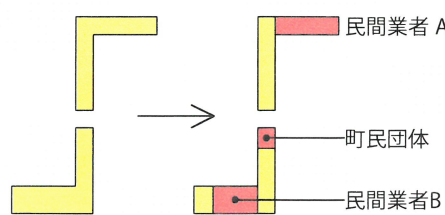
■伝統・風土に呼応する外観

ふれあいセンターと道の駅は〈ドマ〉、〈ニワ〉に向かって軒を伸ばした片流れ屋根です。伝統的な瓦屋根集落の景観を継承しながら、現代の井手町を象徴する、懐かしくも新しい佇まいです。軒裏や内装、造作家具には地場産材や井手町で豊富に採れる竹を積極的に利用し、木の温もりを感じられる空間とします。



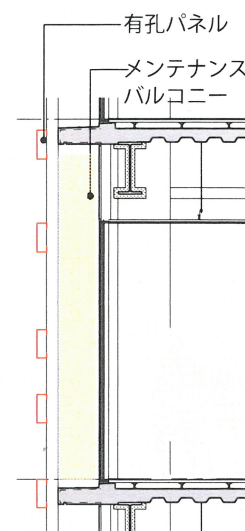
■将来に向けた柔軟な管理計画

ふれあいセンターの細長いボリュームは分割してテナント貸しすることも容易です。将来的には部分的に民間テナントに運営・管理を任せるなど、建物の維持管理コスト・人件費を抑えていくことも可能な計画です。



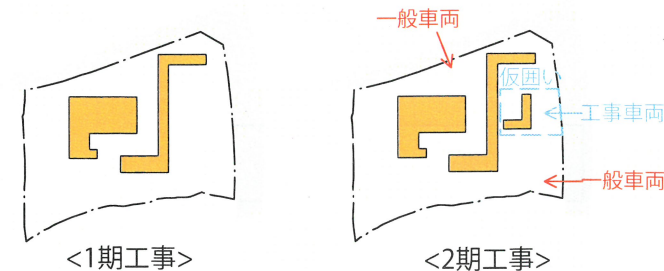
■外壁を包む有孔パネル

外壁は熱負荷低減を兼ねた金属の有孔パネルで覆います。パネル越しに内部の活動が見え隠れし、さながら現代の格子戸のような印象的なファサードになります。パネル内側は通常のビルサッシを用いてイニシャルコストを抑え、外装パネルと外壁・サッシの間にはメンテナンスバルコニーを設けることで、足場やブランクなしで窓清掃が可能になります。



■安全で効率的な施工計画

新国道バイパス開通に合わせて建設する道の駅は、庁舎やふれあいセンターを運用しながらも安全に工事ができる配置です。府道と東井手線、新国道バイパスからの駐車場へのアクセスを確保しながら、最小限の仮囲い範囲で工事を行うことが可能です。



■みんなで考える庁舎

まちづくりセンター椿坂の建設をはじめ、井手町にはまちづくりをみんなで考える土壌ができています。新庁舎の建設にあたっては、地域住民、まちづくり協議会をはじめ、様々な人々の意見をくみ取りながら設計を進めます。

